

令和6年度業務実績にかかると小項目評価結果（案） 項目別整理表

資料 4

原案では、①具体的な実績をあげて、高く評価できると記述されているほか、新たな取組が記述されており、かつ、②今後について大きな改善点が求められていない項目を選定しています。

< I - 第 1 教育に関する項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たっての意見、指摘事項等
21101	適切な選抜の実施(学部)	-	-	<p>入学者選抜関連情報の発信では、高等学校28校・12市町が参加した入学者選抜に関する説明会やオープンキャンパスの開催や、15会場での各種進学説明会へ参加し、それぞれで多くの参加者を集めることができている。結果として入学定員を満了し、合計103名の入学生を確保できたことは入学者選抜にかかると業務が適切に実施されたものと高く評価できる。</p> <p>適切な入学者選抜の実施は、将来の医療福祉に貢献する優秀な人材を育成するうえで不可欠であり、積極的に改革に取り組まれている。こうした改革により、受験生の多様な背景や能力を適切に評価し、より地域医療に貢献できる人材の確保につながることを期待できる。中でも、「多言語多文化選抜」入試はユニークな取組であり、今後の成果が期待されるが、受験者がいなかった点は問題であり、次年度に向けてどのような対策をすべきか早急に検討する必要がある。外国人の方が増えている三重県内の状況を考えると、様々な言語・文化に通じた看護職が必要とされていることから、引き続き積極的な取組をお願いしたい。</p>	○	○	
21102	高大接続の拡大(学部)	-	-	<p>地域に貢献する看護職者の育成に向け、高大接続の拡大を目指した取組である「一日みかんだい生」「出前授業」は、高校生にとって看護職への理解が深まるとともに大学の魅力を高校生や保護者に伝える特徴的かつ意義あるものであり、入学を希望してもらうためにも重要であるため、高く評価できる。特に「一日みかんだい生」のキャリアデザインワークショップは、参加者が具体的な職業イメージを持てる点で意義深い取組といえる。</p> <p>また、「高校生のためのオープンクラス」も普段の授業を開放し高校生に大学の雰囲気を感じてもらう試みとして有意義な取組であるため、高く評価する。</p>	○	○	
21103	適切な選抜の実施(研究科)	-	-	<p>看護学分野における人材確保に向け、連携協力協定機関を対象とした機関長推薦入試、「大学院オープンゼミ」での大学院受験等の個別相談、学内推薦入試、入学料免除等の独自の方法を駆使しながら研究科の入学定員確保のための取組を実施しており、大学院進学への理解促進や学内推薦入試の活用により、学生の進学意欲が高まった結果、令和7年度入試において、数値目標には達しなかったものの学内入試制度を含めて7名の入学生を確保できたことは評価できる。</p> <p>全国的に大学院の定員確保が難しくなっている中で、今後も地域の医療機関等と連携し、修了後のキャリアについてより具体的なイメージを持てるような支援を強化しつつ、質の高い看護専門職の養成に向け、定員を上回る入試の実施を期待したい。</p>		○	

21104	教育課程・教育方法・内容の充実(学部)	—	—	<p>地域に根ざす教育を目指す「三重を知ろうⅡ」科目の継続した実施や、「成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ」科目(R.6年度開講)の実施は、特色ある取組として高く評価できる。今後も継続・発展されることを期待したい。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で中断していた、国際看護実習や国際交流が再開されたことは、国際的な幅広い視点を養成し、看護職としての資質を高める効果があるものと評価する。</p> <p>しかしながら、卒業生の評価として県内就職先に依頼している「学修成果に関する調査」では、地域・社会・国際的な視点を取り入れた保健医療福祉との連携に関する評価は低い状況にある。</p> <p>「地域に根ざし、国際的視野を持った看護師」を継続的に養成するための大学としての国際戦略を定め、これに基づいた国際交流の取組などを継続・強化することにより、県内就職先からも高い評価が得られることを期待する。</p>	○	○	
21105	公正な成績評価の実施(学部)	—	—	<p>年度計画通り、公正な成績評価が適切に実施されている。</p>		○	
21106	教育課程・教育方法・内容の充実(研究科)	—	—	<p>対面授業、ライブ配信授業、オンデマンド授業など授業形態を組み合わせた教育方法の実施は、社会人院生等の利便性という面から有効な方法であると評価する。また、博士後期課程の設置に向けた検討に関して「地元創成看護学分野」における教育課程の具体化への取組を評価する。</p> <p>一方で、目標において「博士後期課程の準備を進めるうえで必要となる前期課程の教育課程・教育方法、内容を見直す。」となっているが、実施内容について何を見直したのか記述がないことは、今後の検討課題である。</p>		○	
21107	公正な成績評価の実施(研究科)	—	—	<p>年度計画通り、公正な成績評価が適正に実施されている。</p> <p>とりわけ「学修成果ルーブリック評価」に基づく評価を実施している点は高く評価できる。</p>		○	
21201	授業の点検・評価	—	—	<p>学生による授業評価について、講義、演習、実習ともに満足度の高い授業になっており、授業の点検・評価・改善活動が適切に実施されていると評価する。特に、学生、教員による授業評価に基づいて全教員が授業改善等報告を作成し、それをHPで公表している点は高く評価できる。</p> <p>学生による授業評価は、重要な役割を果たすことから、形骸化を防ぐためにも、回収率の向上や評価項目の工夫が求められる。また、教員相互による授業点検評価については、次年度以降の教育改善につなげることで、より効果的な授業運営が期待される。</p>		○	

21202	研修会等の開催	—	—	<p>教員の研究・教育の質向上に向け、FD活動としての研修会を①教員の研究コロキウム3回、②FD講習会、③FD/SD研修会など、多面的なアプローチが取られている点は評価できる。ただ、研修会の実施のみでなく、このような研修会の実質的効果を期待したい。</p> <p>「ハラスメント防止体制について」をテーマとした研修の開催について、非常に良い取組と評価できる。ハラスメント対策は数年前から重要視されており、今後も継続的な研修を実施することで、より健全な教育環境の維持が期待される。ハラスメント防止を「後ろ向き」と捉えるのではなく、より良いコミュニケーションにより、教育・研究の質を高める「前向き」な取組と捉え、継続的に実施されることを推奨する。</p>		○	
21301	学習支援	—	—	<p>学生支援については、学生相談制度とチューター制度に基づいて適切に対応しており、学生への周知率や満足度が高く、評価できる。相談内容によっては専門性の高い教職員につなぐなどの連携体制も昨年度に比べて機能していると思われる。</p> <p>令和7年2月に実施された看護師・保健師・助産師国家試験の合格率はすべて100%と最も高い水準を維持しており、国家試験に向けた支援の充実が図られた結果として高く評価できる。</p> <p>引き続き、看護師・保健師・助産師国家試験対策を実施し、学生への支援をぜひ継続していただきたい。</p>	○	○	
21302	大社接続の支援	—	—	<p>大社接続として、卒業生と在学生をつなぐ交流会や、入学予定者を対象とした交流会を設けるなど、三重県内の医療保健機関の特徴や魅力を伝える場を設け、年度計画を上回って実施している。このように学生が卒業生や看護職者等と早い時期につながる機会を設けることは、卒業後の進路決定に資する取組が充実してきていると評価する。</p> <p>なかでも「ようこそ先輩」は、参加者の満足度も高く、地域の看護師として活躍してもらうような意識づけをねらった意味ある取組だと評価でき、県内就職率アップにつながることを期待したい。</p> <p>また、入学予定者と保護者を対象とした交流会の実施において、三重県医療保健部医療政策総括監や卒業生の話を取り入れた点は県内で働くモチベーションにつながる良い試みである。</p>	○	○	
21303	就職支援	—	—	<p>令和6年の県内就職率が54.3%と数値目標の55%に達しなかったことは残念であるが、充実した就職支援活動が行われていることは評価する。</p> <p>県内就職者の確保は重要であるため、数値目標に達しなかったことに対しアンケート結果を分析するなど、今後どのように対応を講じるかが課題である。</p> <p>県内就職率の目標達成のため、引き続き県内医療機関等との連携を強化するなど、不断の努力をお願いしたい。</p>		○	
計	12項目				5項目	12項目	0項目

< I - 第2 研究に関する項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
22101	研究と地域課題との循環の促進	—	—	地域貢献、看護研究支援、そして共同研究の推進は重要である。教員各自の専門分野を活かした講師派遣、教員提案事業について、「みかん大出前講座」「みかん大リクエスト講座」では参加者数(2847人)と高い満足度(99.3%)があり、看護職者のスキルアップや地域住民の健康意識の向上を目的とした教員提案事業でも多くの参加者(1,619人)が得られたことは、教員の地域貢献への意識の高さの反映であると高く評価できる。 「連携協力協病院等との共同研究」は教員及び当校の研究活動の進展として重要であり、高く評価する。今後の共同研究の成果に期待したい。 これらを踏まえ、年度計画を上回って実施していると評価する。	○	○	
22102	競争的研究資金の獲得	—	—	競争的研究資金の科研費申請率が100%に達した点は評価できる。今後は他大学や企業との共同研究を推進することで、研究資金の獲得支援を強化し、教員の研究活動をさらに活性化させることを期待する。 一方で、学内の共同研究の推進が大型競争的研究資金の獲得や博士後期課程設置に向けて重要と考える。今後、学内共同研究の創出に向け大学がサポート体制を作る必要があるだろう。		○	
22103	研究成果の公表と還元	—	—	研究成果の公表・還元については適切に行われている。教員の研究活動の発信を強化し、地域への成果還元を促進するとともに、情報発信のさらなる周知を図ることが重要である。		○	
22201	研究活動への支援	—	—	学長特別研究費での研究支援については高く評価できるため、本制度を活用した研究の推進を期待したい。		○	
計	4項目				1項目	4項目	0項目

< II 社会・地域貢献に関する取組 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
31101	看護職者の能力向上	IV	IV	三重県受託事業の①「病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修事業」、②「看護職員認知症対応力向上研修事業」、③「助産師(中堅者・指導者)研修事業」、④「三重県新人助産師合同研修事業」及び⑤「母子保健体制構築アドバイザー事業」について、継続的に受託するだけでなく積極的に推進しており、事業参加者の満足度も高いことは、非常に評価できる。 また、「認定看護師教育課程「感染管理」」事業終了したのちに、修了生に対して「フォローアップ研修」(2回、31名)を実施した点についても高く評価できる。	○	○	
31102	卒業生へのキャリア支援	III	III	卒業生のきずなプロジェクトの満足度が高い点は評価できるが、昨年度と同様の活動であることなどから、キャリア継続支援の推進について、どのような成果があったのかは不明である。 卒業生支援プロジェクトでは同窓会主催の講演会の広報、学内調整、設営、受付、会場係などを担い、運営をサポートしている点は評価できる。 卒業後のキャリアは学生にとって非常に関心の高い重要なテーマであり、今後も積極的にキャリア支援活動を推進し、その充実を図ることを期待する。		○	
32101	県民のヘルスリテラシーの向上	IV	IV	教員各自の専門分野を生かした講師派遣や教員提案事業の実施などは、昨年度実施されている事業数よりも多く、県民のニーズに応え、県民の心と身体の健康に役立っているものとして高く評価する。これらの事業は教員の地域貢献への意識の高さの反映であり、こうした取組が地域における大学の評価向上にもつながることが期待される。現状に満足することなく、教員のワークライフバランスにも配慮したうえで、さらに成果を高めるための工夫をお願いする。	○	○	
33101	教育研究活動に基づく社会・地域貢献	IV	IV	教員各自の教育・研究活動の他に、県や市町への専門分野を生かした社会貢献や各種学協会への貢献を積極的に展開しており、参画延べ人数は中期目標を大幅に上回るなど、積極的に取り組んでいる点は高く評価できる。 また、初の試みとして連携協力協定機関の看護管理者との意見交換会を開催し、共同研究の推進、公開講座の共催など具体的に進めることとなった点についても看護教育の充実と地域医療の発展において重要な取組であり、高く評価するとともに、今後の連携協力協定機関との連携の深化や、さらなる発展を期待する。	○	○	
計	4項目				3項目	4項目	0項目

<Ⅲ 大学運営に係る環境整備に関する取組>

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たっての意見、指摘事項等
41101	学生の生活支援	Ⅲ	Ⅲ	<p>「大学生活に関するアンケート」の結果では、学生支援制度に対する満足度が高く、目標値を上回っている。とくに今年度は学生アンケートで要望のあった臨時バスの運行を実施している点は評価できる。</p> <p>また、「みかん大修学支援給付金」等を通じた支援を行ったことも評価できる。</p> <p>ただ、全体としては、昨年度と同様の活動であったと思われる。学生生活の充実、健康管理、ボランティア活動の推進、そして経済的支援のさらなる強化が求められるため、より良い学習・生活環境の実現に向けた支援を期待する。</p>		○	
41102	教職員の健康管理	Ⅲ	Ⅲ	<p>教職員の健康維持と職場環境の改善は重要であり、職員満足度アンケートの結果について、全体満足度が57.18点と、前年度から5ポイント上昇しており、アンケート結果の詳細な分析を行ったことや、産業医が総合的に高ストレス者等と判定した教職員に対しては、産業医による面接の実施を案内し、メンタルヘルス不調の未然防止など職場環境の改善に取り組んだことは職場環境・労働環境の改善が図られているものと評価する。</p> <p>一方で、教員満足度アンケートの結果においては、全体満足度が49.61点と、前年度から6.64ポイント低下している。人員不足による多忙が影響しているとのことであるが、継続的に改善活動に取り組む必要がある。まずは、ハラスメントをなくし、心理的安全性を高めることが重要であると考え。また、教員への対応として、「意思形成過程も公開してもらいたい」との意見に対し、教授会の構成員以外に対して傍聴制度を導入した」とあるが、これが抜本的な対応とは考えにくい。職場環境の改善という課題はまだ残されているように思われる。個人への対応に加え、組織全体の働き方改革が求められる。特に、DXの導入など新たな取組が進められているため、今後のさらなる改善を期待する。</p>			○
42101	教育環境・IT環境の整備	Ⅲ	Ⅲ	<p>情報センターが中心となり、教職員、学生のニーズ及び課題を把握し、IT環境を含む施設・設備・備品等について、保守点検ならびに追加整備が実施されている点は評価できる。</p> <p>IT分野ではサイバーセキュリティの問題が社会全体で重要視されており、対策の強化が求められている。特に、昨今はサイバー攻撃の高度化が進んでいるため、大学としても万全の体制を整えることが望ましい。</p>		○	
42102	図書館運営の充実	Ⅲ	Ⅲ	<p>「図書館運営の充実」については、医学中央雑誌Webの大規模なバージョンアップに伴う教職員への研修や、文献検索講習会を学生に実施している点は図書館利用の運営として重要であり、利用者の利便性を高めるための対策が講じられている。しかし、これは一般的な図書館の教育業務であるといえよう。さらに、「附属看護博物館」は全国的に希少な博物館であり、当大学の魅力になる可能性を秘めているため、さらなる広報と博物館の充実が期待される。</p>		○	

42103	環境等への配慮	Ⅲ	Ⅲ	<p>財政が厳しい中で、体育館照明のLED化を行い省エネ設備への切り替えを行ったことや、トイレの暖房便座や温水の温度設定を低くし節電、教職員への節電の呼びかけを行うなど省エネや環境保護を意識した設備改善や教育活動が展開され、環境の保全に取り組んでいる。</p>		○	
43101	大規模災害時等への対応	Ⅲ	Ⅲ	<p>災害発生時に学生・教職員の安否状況を確認する「安否確認システム」の操作訓練を2回実施したこと、南海トラフ地震を想定した情報収集と教職員・学生への情報提供を迅速に実施したこと、さらに臨時情報発表を契機に教職員の参集要件について大規模地震災害対策マニュアルを見直した点については高く評価できる。</p> <p>また、防災訓練を避難時の点呼確認や消火訓練に学生が主体的に参加する方法で実施したことや、発災時の災害対策本部立ち上げと初動対応訓練を行っており、南海トラフ地震を想定した大規模災害時への備えを実施し実際の南海トラフ地震臨時情報発表時の対応に問題がなかった点は評価できる。</p>	○	○	
43102	危機管理への対応	Ⅲ	Ⅲ	<p>リスク管理委員会を開催し、大規模地震対策マニュアルの見直しや、時間外に大規模地震等が発生した場合の初動体制の更新と各班の役割確認を行ったことは評価できる。</p> <p>大学ネットワークのサイバーセキュリティに関しては、適正に対応していると考えますが、サイバー攻撃のリスクは、ますます高まっていることから、今後のIT整備やDXの進展に伴い、サイバーセキュリティ対策の重要性はさらに増すと考えられ、定期的な脆弱性診断を実施し、外部評価機関の推奨する施策を参考にすることが望まれる。サイバーセキュリティを防御のみで考えるのではなく、侵入された場合に備える対策や、その場合の対応方法を想定しておく必要がある。</p>			○
44101	人権尊重とハラスメント防止	Ⅲ	Ⅲ	<p>学生や教職員に対し複数回の研修会を実施し、ハラスメント防止について継続的に周知することでハラスメント防止意識を高めようとする姿勢が見られる。また、教職員の34.5%がハラスメント等で困っているという調査結果を踏まえて、令和7年3月7日に講習会を開催し、ハラスメント防止に向けたよりよい体制づくりについて理解を深めた点は評価できる。</p> <p>一方で、アンケート結果からは十分な改善が進んでいないようにも見受けられる。ハラスメント防止については、不断の努力が必要であり、理解が実際の行動につながるよう、継続的に研修会を実施するほか、ハラスメントに対する大学の姿勢や考え方を繰り返し周知するなど、組織全体としての取組を強化されたい。また、ハラスメントに対するさらなる分析の強化、相談窓口の認知度向上、職場環境の改善を進めることが重要と考える。</p>			○

計 8項目

1項目

5項目

3項目

<IV 的確な業務運営の実施及び業務改善に関する取組>

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
51101	組織体制	Ⅲ	Ⅲ	<p>理事会、経営審議会、教育研究審議会、企画運営会議や教授会等が定期的開催され、組織運営は機能していると思われる。</p> <p>令和5年度の大学戦略会議における広報戦略に係る議論を契機に、事務局横断的な広報チームを立ち上げたことは評価できる。</p> <p>令和6年度の大学戦略会議において、「10年後の三重県立看護大学の望ましい姿」を見据えて、①将来の地域を支える優秀な学生の確保、②県内就職率の向上、③大学院教育の充実をテーマに置いた議論が行われ、喫緊の課題や将来構想など議論を深め、内部統制に務めていることやDXの進展や地域の人材確保に向けた改革を積極的に推進している点は、評価できる。大学戦略会議が大学のビジョンや将来像、その実現に向けたアクションプランを策定するなど、大学戦略を創出する会議として位置づけられ、機能することを期待する。</p>		○	
52101	教職員の充足	Ⅲ	Ⅲ	<p>連携協力協定病院との人事交流を通じて、看護教育の質向上や研究の活性化に取り組んでいる点は評価できる。</p> <p>優秀な教員確保は大学にとって重要な課題である。教員選考委員会や領域の長による面接を実施し、優秀な教員の確保に努めてはいるが、令和5年度・6年度も公募に対してすべてが採用に至っていない。全国的に採用人事が厳しい状況にある中で、優れた教員を採用していく対策を練る必要がある。</p> <p>大学固有の専門職員の採用と育成は高等教育機関としての大学にとって重要な課題ではある。令和6年度に2名採用し、7年度からは6名の法人職員体制となることは高く評価できる。法人職員がこれからどのような働きをするのか期待したい。</p>		○	
52201	教員の育成と働き方	Ⅲ	Ⅲ	<p>教員満足度アンケートの回答等から得られた意見に基づき、教授会の傍聴制度の導入など、職場環境の改善が図られていると評価する。教員活動評価・支援制度に基づき、各教員が教員活動評価票を活用し自己評価を行うとともに、学長若しくは上位教員が対象教員との面談・評価を行うなど、適切に人材マネジメントを実施したことや、大学院研修制度による研修費用の貸与は評価できるが働き方改革については、継続して実施することが望まれる。今後は更なる職場環境の改善を見据えた、重点的な取組に期待する。</p>		○	
52202	事務職員の育成と働き方	Ⅲ	Ⅲ	<p>職員の人材育成については、事務職員の働き方について見直し・充実に努めており、法人固有職員の意見を基に研修体系の見直しを進めたこと、働きやすい職場づくりについては、「プロパー職員の会」を定期的開催することなど、業務の効率化、職場環境の改善が図られており、結果として職員満足度アンケート結果も改善している点については評価する。今後は更なる職場環境の改善を見据えた、重点的な取組に期待する。</p>		○	
計	4項目				0項目	4項目	0項目

< V 財務内容の改善に関する取組 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たっての意見、指摘事項等
61101	自己収入の確保	Ⅲ	Ⅲ	公立大学として、授業料等の学納金は近隣大学の状況も鑑み据え置いたが、入学式や卒業式、公開講座など、来場者が多く見込まれる場面や、書面において関係団体に本学修学支援基金の周知と呼びかけを行い、広く寄付を募り、自己収入を確保する継続的な努力が伺われる。また、施設貸出の再開等の活動は評価できる。 認定看護師教育課程「感染管理」のような自己収入を得ることを今後期待する。		○	
61102	知的財産の適切な保護と活用	Ⅲ	Ⅲ	知的財産研修会に弁理士を講師に迎え、全教職員を対象に研修会を開催し、知的財産の適切な保護と活用に務めている。令和6年度は新たな取組がないように思われるため、職務発明にて新たな特許を取得し、知的財産を活用することで、研究活動が活性化されることを望む。		○	
62101	経費の抑制	Ⅲ	Ⅲ	教職員のコスト意識の向上を図り、経費抑制の継続的な努力が認められ、評価できるが、他特筆すべき取組はないように思われる。		○	
63101	資産の適正管理	Ⅲ	Ⅲ	中長期改修計画等に基づき、「資産の管理・運用」については安全かつ適正に行っていると考える。		○	
計	4項目				0項目	4項目	0項目

<VI 大学教育の質保証及び情報の公開・発信に関する取組>

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
71101	自己点検・評価及び外部評価	Ⅲ	Ⅲ	「自己点検・評価及び外部評価」は毎年継続的に適切に実施していると思われる。 令和7年度に実施される認証評価機関による認証評価については、次期中期目標に基づく中期計画の策定にあたって、その結果を踏まえて反映させていく必要がある。		○	
71102	内部監査の推進	Ⅲ	Ⅲ	令和5年度内部監査の指摘事項すべてに対応しており、「内部監査」は適切に進められている。指摘された事項はオペレーションミスに起因していると考えられ、特に現金の管理については、規定どおり適切に実施されているかを確認することが重要である。今後の改善に向けて、内部監査において管理体制や運用ルールが適切に運用されているかを厳密に確認することが求められる。		○	
72101	情報公開・情報発信の推進	Ⅲ	Ⅲ	大学の教育・研究・地域貢献活動等をPRLし、本学の魅力を広く発信するために、広報動画の活用したことは、WEBを中心とする若者に対して有効な方法であるように思われ、一定の効果が得られており、大学HPの充実など、情報公開・情報発信に努めていることは評価できる。今後はコンテンツの定期的リニューアルが必要になると思われる。		○	
計	3項目				0項目	3項目	0項目